

料理の中の温かさ

塩谷中学校

三年

蘭地

志穂

小学三年生になり引越すまで私は祖母と

暮らしていました。引越す前の私は祖母の

作る料理が当たり前でも通りおいしいな

と感じていただけでした。しかし、引越し

て祖母の料理をなかなか食べなくなりました。

その料理はすべてに手間や気持ち込められ

ていてとても温かいものだと思うようになりました。

私の中で祖母のどの料理が一番かは

決められません。それは、十五夜、十三夜に

作るつくねのお団子や、冬至の日で作る

ゆかりぼろ餅の煮物、何もない日でも作

られる唐揚げまで本当にすべての料理がおい

しいからです。

中学三年生になり受験勉強で忙しくなる夏

休みのことでも、いつもご飯を作ってく

母が一週間入院することになり父と二人で過

ごすことになりました。勉強もしたいところ

でしたが、父も仕事があり忙しいので夕

飯は私が作るうと思っ
 ても、いきました。しか
 し料理が苦手な私は適
 当に冷凍食品を温める
 ことができませぬ。する
 と私の祖母は「冷凍食
 品だけでは体を壊すか
 ら」と言っ「一週間は
 毎日夕飯も作っ「くれ
 ました。何日自炊も
 とかは忘れてしまっ「た
 のですが、祖母が揚げ
 餃子を作っ「くれた日
 がありました。その餃
 子はニンニクがよく効
 いていて、外はパリぱ
 り、中は噛めばじゅわ
 わ」と肉汁が口に広がる
 料理自体は冷めていて
 ても祖母がその料理に
 込め

くれた温かさを感じること
 ができました。毎
 日塾しか母が入院して
 いるというこ
 にストレスや不安を持っ
 ていた私に、祖母の
 料理は元気をくれました。
 料理を作っ「くれた
 祖母には感謝してもし
 切れません。祖母の
 手間暇かけて作っ「た
 料理は私の心の
 わが町の絶品グルメで
 あり、世界一温かくお
 いしい料理です。祖母
 の料理の味、そして安
 心とくれる温みは一生
 忘れることのないもの
 です。